

ごみ減量で、環境負荷と財政負担の軽減へ。

秋が深まったと思えばもう12月、年末の大掃除が気になり始める頃です。ご家庭から出された燃えるごみは、コークス^{*}で焼却溶融処理されます。現在、石炭価格が上昇しており、今後も更なる値上がりが懸念されています。ごみ処理は、焼却溶融だけでなく不燃ごみの埋め立てなど、多くのお金とエネルギーが必要で、市全体の処理費用は年約57億円（市民一人当たりで換算すると約1万5千円）。

石炭の燃焼時に発生する二酸化炭素は、地球温暖化の一因となっています。国は2050年までに二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指しており、本市でも昨年2月に「2050年ゼロカーボンシティ」を目指すことを表明しました。

リデュース・リユース・リサイクル（3R）はもちろん、生ごみの水キリや食品の使いキリ・食べキリ（3キリ運動）など、一人ひとりの身近な取り組みが燃料の消費を抑え、持続可能な循環型社会につながります。ごみが多く出る年末、改めて意識的な実践を。

※コークス：石炭を乾留して炭素部分だけを残した燃料



岡崎市長
中根 康浩